

日中韓の学術交流の覚書に基づく 韓国社会福祉学会への参加報告

副会長／国際学術交流促進委員会委員長 本郷秀和(福岡県立大学)
国際学術交流促進委員会・委員(韓国担当) KON Yonju(西南学院大学)

2025(令和7)年10月17日(金)から18日(土)に韓国ソウルにある中央大学で開催された韓国社会福祉学会(JOINT CONFERENS ON SOCIAL WELFARE 2025)に参加した。本学会は複数の福祉系学会が合同で開催しているものであった。

日中韓の3か国覚書に基づく学術交流として、日本社会福祉学会から和気純子会長(東京都立大学)、本郷秀和副会長(国際学術交流促進委員会 委員長・福岡県立大学)、KON Yonju(国際学術交流促進委員会委員・西南学院大学)の3名で参加した。参加までの調整等については、国際学術交流促進委員会の韓国担当委員であるKON Yonju先生とKANG Minho先生(関西大学)のご尽力を頂いた。

10月17日(金)は午後から基調講演が行われ、次に東アジアフォーラムとして、日本社会福祉学会、中国社会福祉学会、韓国社会福祉学会の各代表による講演と質疑応答がなされた。日本社会福祉学会からは和気純子会長から少子高齢化や地域包括ケアに関する日本の現状等について、統計的データなどを用いて報告がなされた。韓国からは高齢社会における介護保険とその課題に関する報告(地域共生・地域包括ケアに関する内容を含む)、中国からは高齢者のIT機器活用に関する取り組みや課題についての報告がなされた。その後、日中韓の3か国覚書に基づく自由研究報告として、日本社会福祉学会の会員から5グループ(計6名)による報告がなされた。報告内容は、児童福祉(学童保育等)や介護人材に関する内容であり、活発な質疑応答もなされた。

当日の情報交換会においては、和気会長を中心に韓国社会福祉学会の役員や中国社会福祉学会の役員の先生と交流を行った。なお、翌日の10月18日(土)は、自由研究報告がメインであり、韓国社会福祉学会等の会員を中心に各分科会が開催された。

今回の東アジアフォーラムでは、日中韓の共通的な課題である少子高齢化に係る問題が提起され、今後の交流も確認でき有意義な参加となった。